レタッチャーの仕事と役割

アートディレクションにおけるレタッチの可能性

加藤建吾（アートディレクター）（TUGBOAT2）×北岡弘至（レタッチャー）（GARABATO）×福島典昭（フォトグラファー）（CORAZON LTD.）

多くのグラフィックの仕事を一緒に手掛けている、レタッチャーの北岡弘至さん（GARABATO）、アートディレクターの加藤建吾さん（TUGBOAT2）、フォトグラファーの福島典昭さん（CORAZON LTD.）の3名に、それぞれの立場から、よりよいビジュアルを完成するために欠かせない様々な要点や、お互いに配慮すべきところを語っていただいた。

左から加藤建吾さん、北岡弘至さん、福島典昭さん。

お互いのテイストやイメージを共有する

福島　この3人で初めて一緒にした仕事は、昨年のNTT DoCoMo2.0のキャンペーンです。それからお2人それぞれとお仕事をする機会も増えて、とくに北岡さんにはご迷惑なほどお願いしてしまっている状況です（笑）。

北岡　出会うタイミングや相性というのもあると思います。

加藤　確かに。僕もデザイナー時代から北岡さんにはお世話になっていますし、福島さんとは出会って1～2年ですが、このメンバーでチームを組むことも多くなっています。

福島　とにかく僕の場合は、NTT DoCoMo2.0がきっかけで、皆で一緒に一つのビジュアルを良いものに作り上げていく感覚が強くなりました。昔はレタッチも自分でやっていたのですが、今はレタッチャーさんにお願いすることが多いです。逆に、一方的に撮ったものを渡すのでは、色やトーンも含めてゴールには到達しにくいと実感しています。とくに北岡さんはレスポンスが速いし正確です。抽象的な言葉で伝えてもイメージ以上にいい物をあげてくれるので本当に助かっています。僕は今や北岡さんのことを「師匠」と呼んでいますから（笑）。

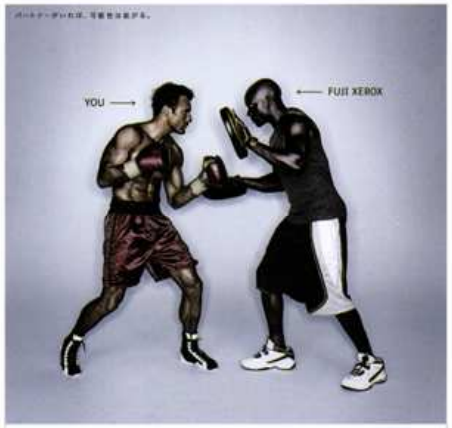
北岡　ありがとうございます（笑）。

加藤　今はフォトグラファーと同様のセンスや感受性がレタッチャーにも求められてきています。フォトグラファーとレタッチャーは野球でいうならピッチャーとキャッチャーのような関係。いかにパートナーシップが取れているかが大前提です。レタッチを生業とする人がどんどん増えているだけに、もはやアートディレクターやフォトグラファーが言ったことを器用にこなすだけではレタッチャーとして不十分というか、どうしても優秀な人が目にとまってしまうので、僕自身も最近はフォトグラファーの誰と組むかを考えるようにレタッチャーの誰と組むかを考えています。

福島　わかります。僕も北岡さんにお願いするようになって、以前より自分のテイストに広がりが出てきました。それぞれがお互いのテイストやイメージを共有しながら、想像以上のものを一緒に作り上げていけるのは、いろいろな可能性を秘めているので、仕事をしていてすごく楽しいです。

北岡　レタッチャーの基本的な役割は、違和感なくビジュアルを完成させることにあるので、まずはアートディレクターやフォトグラファーが持っている方向性やイメージを引き出して、それを自分の中で具体化する流れになります。そこでちょっとおこがましいことを言うと、自分がやる以上は、もらったイメージに何かプラスαで盛り上げたいと思っています。

加藤　アートディレクターの立場から見てもそこは大いに期待したい部分。僕自身も一旦組むと、その人のテイストに口を挟まないことにしているので、その代わり、フォトグラファーとレタッチャーの間で成立したものを企画からずれないように、一度相談してもらうようにしています。



北岡さんと加藤さんの仕事でごんともフォトグラファーの古村正樹さんとは初仕事。全体的な写真の強さと最終的に定着させる色が違和感なくはまったアウトプットができている。「写真の雰囲気よりも、古村さんが持っているテイストをどこまでグラフィック上に落とし込むかが一つの課題であり、それが逆に面白かった」と話す加藤さん。北岡さんも「到達点をはっきり示すフォトディレクションで、レタッチもストレートにそこに合わせることができた」と語る。

富士ゼロックス 企業（新聞15段）

ハムエッグ篇、ボクシング篇、ミュージシャン篇、ゴルフ篇 ○CD／TUGBOAT○AD／加藤建吾○C／道前真人○D／妻野聡、佐藤真生、山本宗之、今井聡、五味純○撮影／古村正樹○PH／三ツ橋憲司○ST／タカシバユミ、小澤大介○IllU／福家由次郎○デジタルレタッチ／北岡弘至